

広報

なんせい

第30号

発行 南西糖業株式会社 編集 総務部
〒891-7621
鹿児島県大島郡天城町兼久高約2337
Tel 0997(85)3125 Fax 0997(85)3129

さとうきびの 生産拡大に向けて



徳之島事業本部長
新美 直樹

徳之島の皆様、日頃からさとうきびの生産振興にご尽力いただき、誠にありがとうございます。

現在は、新型コロナウイルス感染症の影響が長引いており、さらには鹿児島県での感染者数の増加もあって、島民の皆様方も不自由な生活を強いられていることと存じます。

私自身もこの半年以上本土に渡っておらず、家族にも会えない日々が続いています。またしばらくは感染防止行動が必要な様子ですので、自粛を続けるしかない諦めている次第です。

さて、この前の製糖期は、栽培面積は減少傾向が

続いてきたものの、台風などの大規模な自然災害が無かったことで、高単収が期待されています。

しかしながら、結果的には管理不良圃場の増加や、想定を超えるイノシシ被害などによって、単収は予想を大きく下回り、収穫量も16万トンを下回って、3年連続で厳しい結果となりました。

さとうきびは豊作貧乏がなく、農作業の負荷が最も低い作物の一つで、徳之島にとつて、欠くことのできない基幹作物ですが、現状は高齢化や後継者不足、収益性が見劣りなどによって、作付面積の減少が続いている上に、単収の低下も顕在化しており、危機的な状況にあります。

当社は現在、伊仙と徳和瀬の2工場で製糖を行っています。この2工場を維持して行くためには、最低でも18万トンのさとうきびが必要ですが、現状は非常に厳しい状況です。もし、現在の16万トンに

届かない状況が続けば、1工場化に向かわざるを得ず、その場合は徳之島全体の経済に大きな影響を及ぼす恐れがあると考えています。

平成7年に3工場を2工場に縮小した時も、大きな影響がありました。1工場になると、1日当たりの圧搾量が減って操業期間が長くなり、植付作業や管理作業の遅れ、品質劣化による糖度や単収の低下などが要因となって、何年か後には収穫量が10万トンそこそこに落ち込んでしまう可能性が高いと考えます。

その結果、さとうきび産業で働く人の数は現在の60%以下になり、島に入ってくるお金も60%以下になつて、島の経済自体が縮小し、活力が益々失われてしまうこととなります。

私共南西糖業は、これからの3年間をさとうきびの生産回復に全社を挙げて取り組む期間であると位置付け、収穫面積を毎年150畝増加(3年で450

畝増)させることを目標に、取組を開始いたしました。

取組の概要は、3原料事務所員の増員、当社生産助成費の大幅な増額(例年の約5倍を想定)、省力化機器の導入推進、機械化・スマート農業の推進、荒廃地対策、関係諸機関及び農家の皆様方との一層の連携強化、さらに、南西サービスを中心とした農作業受委託調整センターの有効活用などで、各関係機関の皆様、農家の皆様と一緒に目標達成に向けて活動を強化して行きたいと考えています。

ここ徳之島は緑豊かな農業の島で、皆が元気で楽しく暮らせる素晴らしい場所だと思っています。

この島の生活を守り続けるためにも、さとうきび産業を今一度盛り上げて行くべく、社員一同、一丸となつて取組んで参りますので、皆様方からのご指導、ご鞭撻、そしてご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

畑でこんなにも!!

いくつか畑を持っていらっしゃるのと、ここはいつも良く穫れるけどあの畑はいくら頑張ってもあんまりないって、毎年経験されている方は多いのではないのでしょうか。

そのように苦労している畑の中には、排水不良で発芽は思うようにならないけれど雑草だけはすごいってところは結構多いですよ。

さて今回は、そんな畑でもさとうきびをどうにかうまく育てられないかという話です。

先日、徳之島全域の原苗を植え付けてある40余りの畑を一斉に調査して回りました。

これらは、種子島から送られてきた健全な原原種苗をほぼ同時期に植え付けた夏植えと春植えの畑です。

その結果、海岸線付近のアーニチャ(石灰岩土壌)と山手のジャガレ(粘板岩土壌)では生育に面白いほどの違いがあるなあってことを再認識することとなりました。

ました。

写真はその一部で、ほぼ同じ頃に植えて、且つ同じ原原種苗なのに生育、色合い、分けつ等を改めて比較するとこちらも違うものなのです。



ジャガレ(粘板岩土壌)

アーニチャ(石灰岩土壌)

そんなに違うの?!

さて、土壌条件でこのも生育が違うのはどうしてでしょうか。



まず作物が健康に生育するために必要な要素を大きく分けると、光、水、温度、空気、養分の5つに分かれるそうです。

島の中なので光、水、温度、この3つには大きな違いはないはずですが、そうすると空気と養分の違いということになりますね。

その内、養分については有機物量やその他の必須要素、ペーハーなどの働きがそれぞれ複雑に絡み合ってくるのでこれはこれで面白いのですが、これを紐解くと話が終わらなくなるので次の機会に取っておきたいと思えます。

今回はもう一つの空気に絞って考えてみたいと思います。

ジャガレの単収が悪いのはなぜ?!

話を戻して排水不良圃場の生育が不良となる原因をこの桶の理屈に置き換えると、いくら潤沢に肥料やその他の条件に手をかけても、空気の板が短ければ水はそれ以上桶の中には溜まらないうことになりません。

これが、ジャガレがアーニチャに勝てない根本的な要因の一つではないかと思えます。

このような原因で新植の時に欠損、分けつ不足でスタートすると、そのあとの株出しもその影響を受け低単収が持続しますよね。

更に、このような畑では肥料をあげると雑草だけは勢いよく育って、雑草畑かさとうきび畑かわからなくなってしまう大変、なんでもこのような畑ではほぼひとセットの悩みのようになっているのではないのでしょうか。

これも、この桶の理論に原因究明のヒントがあります。

つまり、さとうきびはその後の株出し迄を考えて比較的深めに植え付けるので、その根は空気の少ない地下深くで育つことになります。

一方、空気が潤沢にある表土付近に根を張る雑草は肥料と空気を潤沢に吸収して旺盛に生育するので、おかれた環境の差で結果的に

さとうきびはこの競争に負けてしまっているのだと考えられます。

でも、肥料をあげると雑草が伸びるってことは、生育に必要な要素の内、養分については肥料をあげることである程度は改善可能とも考えられる訳なので、問題は地中深いところにあるさとうきびの根にどのよう



空気を届ける

では、どうやってさとうきびの根に空気を届けるかについてですが、物理的な方法として排水管を地中に埋める暗渠(あんきょ)排水工事がまず思い浮かびます。

これは行政が支援している場合もありますが、個人単独となるとかなり高額になるので現実的に難しい場合が多いですね。
これよりは手軽なのは明渠(めいきょ)排水を取るのと、畑の周りに排水路を取る方法で実施されている畑

もありませんが、それだけでは十分な効果があるとは言えないですね。

後はもっと手軽な方法として薦められるのは、植付けた直後にサブソイラまたはハーフソイラを畝間に走らせるのはどうでしょうか?これだけでも水切れは相当よくなるのではないのでしょうか。



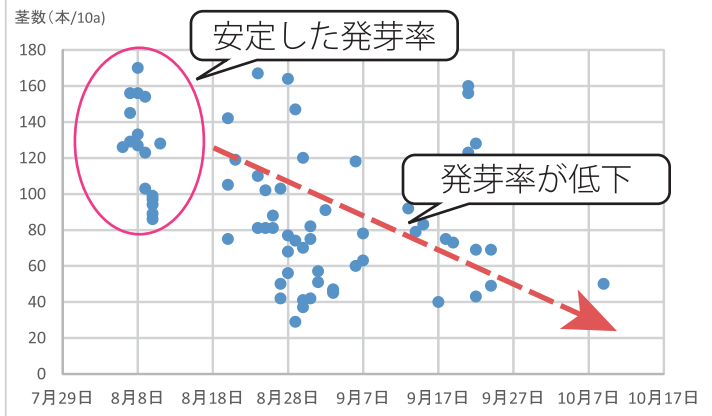
早期の夏植は

そして、もう一つの対応策として我々が推進しているのが早期の夏植えです。

下段のグラフは、昨年南西サービスがビレットプランターで植え付けた約20畝の夏植えを植付け時期と発芽率でプロットしたものです。

ここでも発芽があまりよくなかった畑は排水不良の畑が多かったのですが、注目していただきたいのは、相対的に降雨の少ない8月中旬までの早い段階で植え

ことがデータに表れていることです。
このデータから推測すると干ばつも心配ですが、排水不良の畑に関しては空気層が維持されるので、多少乾いているぐらいの方が発芽率はかなりの確率で高くなっているようです。



適正品種は

この傾向と27号の特性を生かした栽培の考え方を組み合わせてはどうかと考え

ています。

27号は他の品種に比べて夏植えでの初年度の単収が高く、その後の株出では失速する傾向が高い、瞬発型で持続性(多回株出し)が低い特性を持った品種と考えられます。

この特性を生かすとすれば、これまでの品種で夏植えをしても大きく単収が稼げなかった畑には、27号を7月~8月の暑くて乾燥しているうちに植えて(実は、27号は暑ければ暑いほど勢いよく伸びるといふ特性もあります)、一気に初年度で10tぐらい収穫して、後は早めに見切りをつけて植え替えるという、これまでの品種では難しかった短期勝負の栽培体系を考えてはいかがでしょうか。

恒常的な低単収の畑の場合、毎年畑の管理に苦労するよりは、早期夏植え一発型と割り切った植付体系へ切り替えた方が収益性の向上があり、労力、コストも低減できるのではないかと考えています。

余談ではありますが、さ

とうきびの品種にはすべてにおいて万能な品種はありません。

それぞれに特性があつてそれぞれに相性のいい土質や気象、気候があり、27号については今回紹介したような使い方がこの品種の特性を生かした使い方ではないかと考えています。

他の品種にもそれぞれの特性があるので、別の機会にそれぞれの効率の良い植付体系を提供させていただく機会を設けたいと思います。

さて今回、収益性の高い夏植えを栽培するにはどうしたらいいのか、という視点でさとうきびの生育理論に触れながら一つの方向性を提案させていただきましたが、正解は一つではないと思います。

ここは違つとか、こんな考え方もあるとか、いろんな意見が活発にでてくるのが生産振興には重要ですので、皆様が取り組んでいる新しい考え方などがあれば、ぜひご意見としてお寄せいただければ幸いです。

工場魅力UP

私たちの世界は、技術革新によって多くの技術が進歩することで、その時代に対応することが可能となりました。製糖工場でも同じことが言えます。

当社の創業初期は、作業現場にしか操作スイッチが無く、バルブ操作は人力で行われており、当時の工場設備の熱気の中での作業はとても過酷であったと思います。

その後、工程管理の中央制御化のために統合生産制御システムを導入し、いくつかの工程については、一つの制御室から複数の工程を管理できるようになり、工場のほとんどの操作は一部の作業を除き自動化または半自動化されています。

そのため、工場での業務形態は大きく変化することとなり、通常時は自動監視システムが常に監視し

ているため、警報の監視や機器点検業務がメインとなっております。

このように、原料糖の製造を目的とすることに変わりはありませんが、この50年の間で労働内容は大きく様変わりしております。時代とともに、ニーズや環境、技術は常に変化を続けておりますが、今まで培ってきた技術を大切に「これからの時代に求められるもの」を常に考え行動し地域密着型企業として、地域の活性化に貢献していきます。



新入社員紹介

令和2年4月1日付で新しく仲間入りした3名の新入社員を紹介します。

入社後、約3カ月が経ち、仕事にも慣れて元気はつらつと頑張っています。

今後ともよろしくお願い致します。



徳和瀬工場
中島 伸一

会社の一員として、少しでも早く仕事を覚え、南西糖業と徳之島の発展に、貢献できるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。



総務部
西松 奈津美

これまでの業務での経験を活かし、新しいことは学び、南西糖業と徳之島の発展に貢献できるよう頑張りたいと思います。よろしくお願い致します。



伊仙工場
木山 尚也

会社の一員として、南西糖業と徳之島の発展に、貢献出来るよう頑張ります。農業経験が少ないので、ご指導ご鞭撻よろしくお願い致します。

今年の製糖期、一緒に働きませんか？

- ✓ 未経験でも可
- ✓ 食事手当・技能手当有り
- ✓ 交通費支給

随時、個別説明会を行いますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

- お問い合わせ -

0997- 85-3125 (総務部)